

死生観 本社世論調査

目を引くのは、「安らかな最期」への願望。「死生観」をテーマに朝日新聞が実施した全国世論調査(郵送)では、苦痛や苦悩をできるだけ少なくして死んでいきたいという思いが色濃く表れた。

延命治療「希望しない」81%

延命治療について、「重い病気で治る見込みのない場合の延命を目的とした治療」と説明して聞いたところ、「希望しない」人が81%にのぼった。「希望する」は12%と少なかつた。家族に対する延命治療でも、「希望する」の33%を上回った。延命治療を受けるかどうか本人の意思がはっきりしない場合に、「家族が延命治療を拒んでもよい」は72%、「そうは思わない」が22%だった。

末期がん「知らせて」78%

いまや日本人の3人に1人はがんで亡くなるといわれる。自分が治る見込みのない末期がんだとわかったら、「知らせてほしい」という人は78%にのぼった。とりわけ20代から50代では、告知希望が85%前後と高かった。「知らせてほしくない」という人は全体の18%だが、70歳以上では32%と高い。

「孤独死が心配」4割

子どもいないと6割

みとる人がいなくて、死んでもすぐにはわからないような「孤独死」。自分が孤独死することをどの程度心配しているか聞いた。その結果、「大いに心配している」8%、「ある程度心配している」29%で、合わせて4割近くが心配している。「まったく心配していない」は16%だった。

葬儀「しなくても」36%

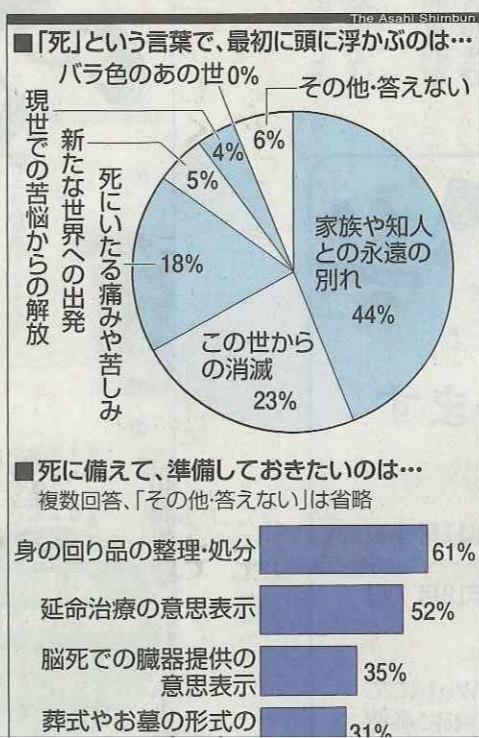
葬儀に関する限り、「簡素な立ち」を求める意識がかなりはっきりと表れた。自分の葬儀を「してほしいか」「しなくてもよいか」と二者択一で聞いたところ、「してほしくない」が58%と過半数の一方で、「しなくてもよい」という人が36%もいた。

お墓「いらない」17%

への抵抗感をせず、火葬が半数近い」と回答した。51%だった。自分の墓をどうするか、祖や両親の墓も多かっ「いらない」た。ほかに用意したい親のお墓に「墓に埋まらなく自然葬」関心があ「死んだら、死んだら、死んだら、死んだら」という結果

「準備して」「突然」理想の最期は二分

「余命を知り、心の準備をただ積極的にかかわりたいから死ぬ」と、「ある日突然に、何の準備もせずに死ぬ」と、あなたにとってどちらが望ましいか。こう聞くと、「心の準備をしてから」が49%、「ある日突然」に「44%と、回答はほぼ真二つに割れた。70歳以上では「ある日突然」が5割を超え、やや高めとなった。

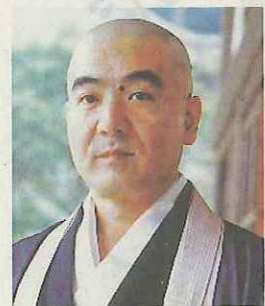


安らかに簡素に逝きたい



非情だった妻への告知 川本三郎さん

本日は、「がん」という文字も見たくないんです。2008年に家内の患いを食道がんで亡くしてから、いまだに立ち直れません。57歳です。若すぎます。今回の調査では、家族が末期がんとわかったら、本人に知らせたいという人が4割います。多いので少し驚きました。実際に家族が末期がんと診断されたとき、その人たちが



死ぬ時も気を使う社会 玄侑宗久さん

すね、いまの日本は。生きていくことはもちろん、そして死んでいくことも、結局は周りの誰かとかかわっていることです。「もちつむたれつ」でしょう。ところがいまの学校教育は、迷惑をかけないことや自立、自活ばかりを促します。地縁血縁といった「縁」が薄れているのが、今回の調査結果にも反映しているのではないのでしょうか。

とこそ、「あの」と考える人が49%。約半数が、理に不満があるといす。健全な数字で、と、言いますのは、現世のあの世とは、現世の世のイメージを聞番が「生まれ変わりが「やすらぎ」と